

2. 私たちの住む街の素晴らしさ

2-1. 六甲山地の豊かな自然の恵み^{めぐ}

六甲山地は、豊かな自然に恵まれた緑の森で、四季を通して、私たちを楽しませてくれます。しかし、江戸時代の末期には白い岩はだばかりが見え、須磨アルプスのように^あ荒れ^は果てた山だったといわれています。現在の緑あふれる六甲山地は、明治以降、人々の手によって木々が植えられ、100年以上の^{さいげつ}歳月によって再生されたものです。今、私たちの目に映る山なみは、^{うつ}かけがえのない財産です。

木々の種類や生き物も非常に豊富であり、古くから六甲山地は登山や^{さん さく}散策の場として市民に利用されています。こうした山を^{ありあり}散策すると、四季折々の植物などが楽しめます。



2-1-1. 六甲山地の緑



縄文時代の六甲山地の植物は、シイ、カシなどの照葉樹林（つやつやした厚い葉を持つ樹木）でした。

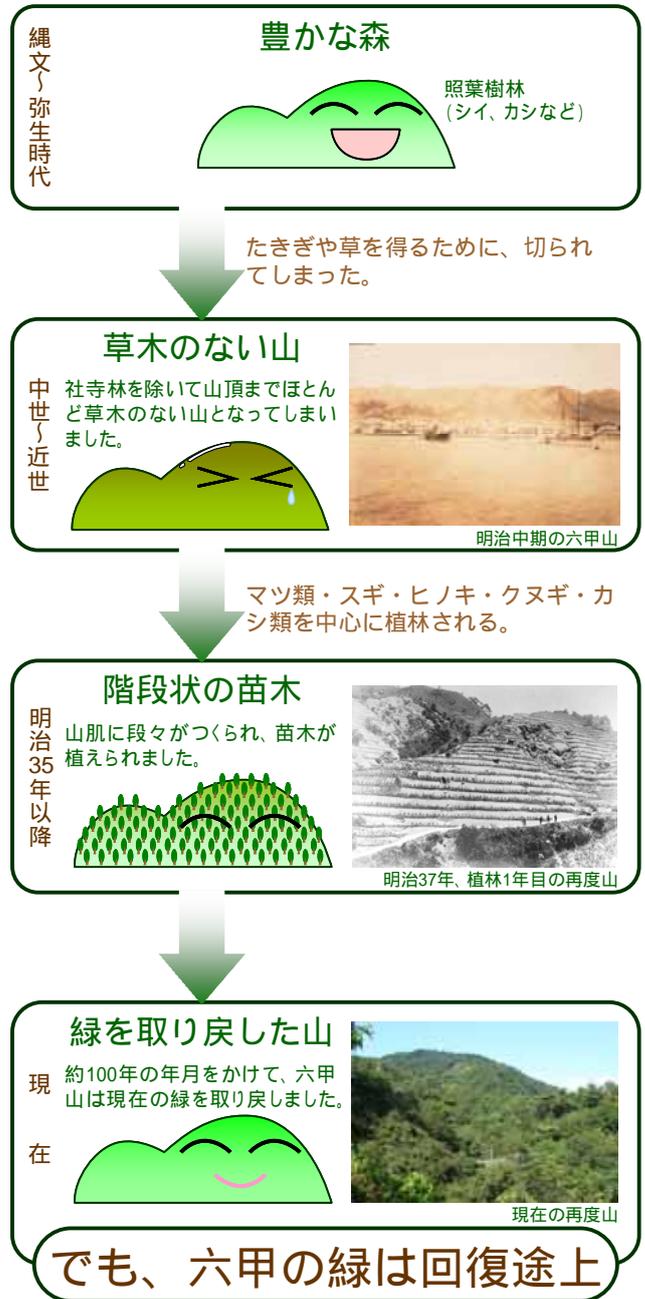
六甲山地は緑豊かな山でしたが、社寺林以外は、薪を得たり草を刈ったりして、自分たちの力ではもともにもどれないほど、樹木が切り出されました。明治初期には地表が見えてしまうほどになりました。もともと崩れやすい性質を持つ六甲山地は、風雨にさらされ荒れ果ててしまったのです。

その後、明治35年（1902年）から始まった緑をとりもどすための工事によって、六甲山地は植物の宝庫となりました。

妙法寺川や天井川周辺では、希少な植物として、板宿八幡神社のヒメユズリハ-カゴノキ群落、須磨寺のヒメユズリハ-ヤマモモ群落、また、鉢伏山にはウバメガシ群落が見られ、この地域の大きな特徴となっています。普通に見られる植物としては、アラカシ、コナラ、ツルヨシなどがあります。

また、社寺林として守られてきた太山寺や転法輪寺には珍しい原生林が見られ、白川には神戸市指定記念物の石抱きカヤも見られます。

これらの植物は、たいへん貴重なので採取はしないでください。



六甲山地は昔、草木のない山だったって知ってた？

緑豊かな六甲山地は、人口が増えるにしたがって、多くの薪や草が切り出され、草木のない山になりました。その後、明治35年（1902年）から緑をとりもどすための活動が始まり、ヤシャブシ類、ニセアカシア、マツ類、スギ、ヒノキ、クヌギ、カシ類などを中心とした植樹を進め、現在のように緑を回復させています。



たいさんじ てんぽうりんじ めずら
太山寺や転法輪寺の原生林には、珍しい植物があるんだよ！！

【太山寺の原生林】

太山寺周辺の山は、「太山寺の原生林」と呼ばれ、コジイやウバメガシの原生林は縄文時代からの原生林として、兵庫県の天然記念物や「私の好きな兵庫の風景100選」に選ばれています。

この原生林には約160種類の植物が自生し、多くの野鳥や小動物の生息する、神戸市のみならず、兵庫県でも有数の貴重な照葉樹の森をつくっています。

【転法輪寺の原生林】

海拔約100mの丘にある転法輪寺の原生林は、参道両側の斜面のツブラジイ林と、観音堂の小さな丘を囲むウバメガシ林からなります。

比較的狭い地域内に約70余種の暖帯性植物が茂り、自然環境が良く保存され、さらに鳥類も大変多い、都市地域に残された極めて貴重なものです。また下畑海神社にもウバメガシ林が見られます。

【白川の石抱きカヤ】

須磨区白川のカヤの巨木は、根元に石仏とエノキをしっかりと抱きかかえているため「石抱きカヤ」と呼ばれています。

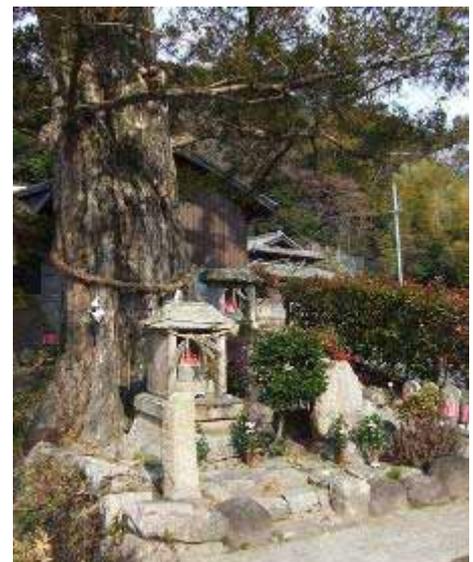
県下有数の貴重なカヤの木で、幹まわり4.5m、高さ20m、樹齢約400年の大木です。神戸の名木、兵庫県指定郷土記念物、神戸市指定天然記念物に指定されています。



太山寺の原生林



転法輪寺の原生林



白川の石抱きカヤ



私たちの街に残る貴重な植物を調べてみよう！
太山寺や転法輪寺原生林にどんな植物が生えているのか調べてみよう！



須磨海岸には、貴重な海浜植物の自生が見られるよ！

須磨海岸には、阪神地域では数少ない貴重な海浜植物が自生しています。兵庫県版レッドデータブックにも「須磨の浦の海浜植物群落」としてCランクに選定されています。海浜植物は、須磨ベルトコンベヤのあった跡地において、保護柵によって守られています。この自生地は、一の谷川河口部を挟んで東西の二つのエリアに分かれて設置され、貴重な須磨の草花の生育地となっています。



須磨海岸のベルトコンベヤ跡地



海浜植物保護の呼びかけ



海浜植物ってなんだろう？

海浜植物は、波・風・塩・砂や紫外線などの影響を受けるきびしい環境に生育しています。そのため、背を低くする、根を深くはる、葉の表面を固くして、水分を体内に蓄えるなどの工夫をして生きています。

須磨海岸では、ツルナ、コウボウムギ、コウボウシバ、オカヒジキ、ハマダイコン、ハマボウフウ、ハマヒルガオ、ハマゴウ、ハマエンドウなどが生育しています。



海浜植物の自生エリア



海浜植物の自生エリアに行って、貴重な植物を調べてみよう！
注) とっていいのは写真だけ、採取しないで観察しましょう！



私たちの街の中では、どんな植物が見られるのかな？

妙法寺川周辺の須磨地域では、様々な植物を見ることができます。

	妙法寺川や天井川周辺で見られる植物 <small>てんじょうがわ</small>	須磨海岸で見られる植物
春	写真の他、セリ、ギシギシ など  <p>オオイヌノフグリ</p>  <p>ホトケノザ</p>	写真の他、ツルナ、マンテマ など  <p>ハマヒルガオ</p>
	 <p>オランダガランシ(クレソン)</p>  <p>ヒメオドリコソウ</p>	 <p>ハマエンドウ</p>
夏	写真の他、ヒカゲイノコズチ、エノコログサ など  <p>ジュズダマ</p>  <p>ヒメツルソバ</p>	写真の他、ハマナタマメ など  <p>ハマゴウ</p>
	 <p>ツクサ</p>  <p>ツルヨシ</p>	 <p>ハマボウフウ</p>
秋	写真の他、オオオナモミ、ヨモギ、カゼクサ など  <p>チカラシバ</p>  <p>ミソツバ</p>	写真の他、ハマユウ、オカヒジキなど  <p>ツルナ</p>
	 <p>イヌタデ</p>  <p>ママコノシリヌグイ</p>	 <p>コウボウムギ</p>

山地・^{しっち}湿地・池では、市街地では見られない植物を見ることができます。

	山地で見られる植物	湿地や池で見られる植物
春	写真の他、シハイスミレ、クロモジ など   クサイチゴ カンサイタンポポ	写真の他、イシモチソウ、モウセンゴケ など   オオミズゴケ ガマ
	  コバノミツバツツジ タムシバ	  ショウジョウバカマ キショウブ
夏	写真の他、コアジサイ、ノリウツギ など   タニウツギ ヤマボウシ	写真の他、ノハナショウブ、ノギラン など   ミカキグサ オオカナダモ
	  ナツハゼ ツリガネニンジン	  カキラン サワシロギク
秋	写真の他、ヤクシソウ、ヒメヤシャブシ など   ススキ クサギ	写真の他、スイラン、ヌマガヤ など   ウメバチソウ ミズビキ
	  ウメモドキ ヌスピトハギ	  ワレモコウ リンドウ



いろいろな場所で見られる、様々な植物を観察してみよう！
 注) とっていいのは写真だけ、採取しないで観察しましょう！

2-1-2. 妙法寺川から須磨周辺の生き物たち



妙法寺川から須磨周辺には、どんな生き物があるのかな？

妙法寺川などでは、河川特有のいろいろな生き物が見られます。また河口付近や須磨海岸などでは河川とは違った生き物を見つけることができます。

妙法寺川などで見られる生き物		海岸付近で見られる生き物		
鳥	写真の他、キセキレイ、カルガモ など	写真の他、チュウシャクシギ、オナガガモ など		
				
	カワセミ	セグロセキレイ	ユリカモメ	ハマシギ
				
ジョウビタキ	コガモ	ヒドリガモ	アオサギ	
魚など	写真の他、コイ、カワニナ など	写真の他、アサリ、テッポウエビ など		
				
	オイカワ	フナ	マハゼ	ボラ
				
サワガニ	モズクガニ	ケフサイソガニ	ハクセンシオマネキ	
妙法寺川地域で見られる昆虫				
昆虫	写真の他、クマゼミ、コシアキトンボ、コカマキリ、ギンヤンマ など			
				
	アオスジアゲハ	ヒグラシ	アゲハチョウ	エンマコオロギ
				
トノサマバッタ	コオニヤンマ	オオカマキリ	ウスバキトンボ	

	山地部で見られる生き物	湿地や池で見られる生き物
鳥・けものなど	写真の他、モズ、エナガ、メジロ など  ムクドリ  タヌキ  コゲラ  ルリビタキ	写真の他、コサギ、マガモ など  ハクセキレイ  カイツブリ  バン  ヨシガモ
	写真の他、ヒグラシ、ハンミョウ など  キアゲハ  クマゼミ  カブトムシ  アサギマダラ	写真の他、ミズカマキリ、アメンボなど  オオシオカラトンボ  ギンヤンマ  カワゲラ  シマアメンボ
魚など	写真の他、スジエビ、メダカ など  カワムツ  カワヨシノボリ  モズクガニ  サワガニ	写真の他、ブルーギル、カスミサンショウウオ など  ブラックバス  ウシガエル  イモリ  ヒメタニシ

私たちの街には、まだまだ多くの自然が残っており、様々な植物や生き物が見られます。しかし近年は、国外から来た帰化植物が多くなったり、池などでは外来種の魚が放流され、昔から住んでいた生き物の数が減るなど、生態系が変わってきています。



私たちの街や山の自然を守っていくためには、どうしたらいいの？
 家族や友達と一緒に考えてみよう！



天井川の周辺は、トンボやカニなど、生き物の宝庫なんだよ！

天井川の周辺では、アオモンイトトンボ、シオカラトンボ、ギンヤンマ、ショウジョウトンボが見られます。

また、大きな岩の下にはかなり上流までモズクガニが見られ、河口付近ではケフサイソガニ、カクベンケイガニ、上流のきれいな水域ではサワガニが見られます。



天井川憩いの広場



アオモンイトトンボ



ギンヤンマ



シオカラトンボ



ショウジョウトンボ



稚ガニを抱いたサワガニ



モズクガニ



奥須磨公園ではトンボやホタルを復活させる活動が行われているよ！

「奥須磨公園にトンボを育てる会」では、未来の子ども達に素晴らしい自然環境を残すために、奥須磨公園の小池で、トンボの環境整備活動を行っています。

さらに、絶滅したホタルを復活・定着させようと、ホタルの幼虫の飼育や放流活動を行うとともに、ホタルの鑑賞会などを開いています。

また、絶滅危惧種のカワバタモロコの飼育と保全活動も行っています。



トンボやホタルの環境づくり



妙法寺川周辺で確認された貴重な動植物と外来生物

私たちの街では、サシバ、ハヤブサ、カワバタモロコ、ベニイトトンボ、コバネアオイトンボ、ルリボシヤンマ、カミガモシダ、サイコクヌカボ、ノジギクなどの貴重な動植物が確認されています。

【貴重な植物や生き物】



サシバ



ハヤブサ



カワバタモロコ



ベニイトトンボ



サイコクヌカボ



ノジギク

【外来生物】



セイヨウタンポポ



アライグマ



ミシシippiaカミミガメ



六甲山で育まれる生物多様性

「生物多様性」とは、様々な生き物がそれぞれ関わりあいながら生きていることをいいます。生物多様性には「種の多様性」、「遺伝子の多様性」、「生態系の多様性」の3つがあります。

六甲山地でも「生物多様性」の保全や創出に配慮した調査や取り組みが行なわれています。

「生物多様性神戸プラン2020」において、須磨区は須磨海岸を安全・快適で魅力あるものにしていくことや、須磨アルプスなどの自然や緑の空間を守り、育成していくことが課題となっています。

【種の多様性】

動植物から細菌などの微生物にいたるまで、いろいろな生き物がいます。

【遺伝子の多様性】

同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があります。

【生態系の多様性】

森林、里地里山、河川、湿原、干潟、サンゴ礁などいろいろなタイプの自然があります。

2-1-3. 須磨の水の恵み



私たちの生活に、水は欠かすことができません。人体の70%は水でできているといわれ、水は最も身近で大切なものですが、世界中でも水に恵まれた国や地域はそれほど多くはありません。

その中であって、須磨^{れいせん}霊泉、須磨の名水^{こうぼう}、弘法の井戸^{すが}、菅の井など、私たちの街は古くから六甲山地^{きげん}を起源とする、川の水や地下水の恵みを受けてきました。



須磨には湧き水が多く、水車もあったといわれているよ！

昔は、私たちの街須磨には豊かな湧き水があり、当時をよく知るおじいさんの話から、水車小屋もあったことがわかります。

- おじいさんからの話 -

「ここにはええ湧き水がありましてなあ、水に不自由はしませんでした。川よりほかに水がようけあったんですな。千森川^{ちもりがわ}のところで、今、マリスト国際学校^{ちもり}（千守町1丁目）がありましよう。

あそこの坂が千森川に落ちるとこで、米つきの水車が回ってました。他にもここには水車小屋がちょいちょいありましたな。湧き水を^ふ噴き上げてるとこがようけあったからですわ。

須磨寺^{すまでら}のとこの霊泉、あんなんが三ヶ所も四ヶ所もあったんです。そやから大きな別荘でも井戸^ほを掘らんとね、須磨村の人から水を買ったんです。

少ないなりに今も水はきれいですけど」・・・

（出典：「ふるさと須磨」、昭和62年（1987年）、^{りきゅうちょう}離宮町老人いこいの家での聞き取り）

注）千森川の河口部は、昔は川の周辺が見えないほどヨシなどが^あ生い茂り、^{しげ}隠江と呼ばれていましたそうです。



須磨の名水



須磨霊泉



須磨には菅の井や鏡の井など水にまつわるお話がたくさんあるよ！

須磨には湧き水がたくさんあり、歴史の民話やいい伝えの中で、水にまつわるお話がたくさんあります。

次に主なお話を2つ紹介します。

【菅の井】

伝説によれば平安時代中期のころ、菅原道真が九州大宰府に左遷され、その道中、風雨をさけて須磨に一時上陸した時、村人たちは魚網の大綱を巻いて円形に座り、菅原公に休んでいただいたといわれています。

その時に、西須磨の旧家・前田家から井戸の水をくんで菅原公に差しあげたところ大いに喜ばれて、前田家ではその井戸を「菅の井」と名付け、この水で銘酒「菅の井」を作って毎年太宰府天満宮へ献上していたと伝えられています。

【鏡の井】

平安時代初期のころ、在原行平は須磨にわび住まいしていましたが、その時に多井畑の松風と村雨という美しい姉妹とたいへん仲良くなりました。

行平が都に帰ったあと、姉妹は行平の旧居跡に仮住まいし、観世音菩薩を祀り、行平をしのびました。その家が松風村雨堂だといわれています。

また、多井畑には、二人が水に顔や姿をうつして鏡として使ったといわれている泉があり、これを鏡の井と呼んでいます。



菅の井(元宮長田神社)



松風村雨堂



鏡の井



阪神・淡路大震災で貴重な水源となった須磨霊泉や弘法の井戸などを見に行ってみよう！

2-1-4. 須磨の産業



昔の須磨一帯は、家もまばらなさびしい漁村で漁業が中心でした。明治20年（1887年）ごろは沿岸漁業が中心で、イカナゴ、イワシなどを獲っていました。また、妙法寺川では河口から500mほど上流の辺りまで、ウナギなども獲っていたそうです。昭和30年代（1955年ごろ）には海苔の養殖が盛んになり、「須磨海苔」として全国的に有名なものとなりました。また、水車による精米も行われていたといわれています。



高取山や妙法寺付近では、石炭の採掘が行われていたんだよ！

江戸時代も終わりのころ、アメリカのペリー提督が率いる4隻の黒船が来て以来、西洋の国々の強い開国の要求に、日本国内は大慌てになりました。時の将軍徳川家茂は大阪湾を視察し、勝海舟の意見を取り入れて、神戸、湊川、和田岬の3ヶ所に大砲を置くとともに、船を操る技術を習い覚えさせるために、神戸海軍操練所を開くことを決めます。ここには坂本龍馬や陸奥宗光など、幕末から明治にかけ、活躍する人材が学んでいます。

勝海舟の考えは、神戸海軍操練所に、幕府が持っている2隻の蒸気船を練習用の船として配置し、その燃料には、当時高取山のふもとで発見されたという石炭を利用するというものでした。しかしその操練所は、2年後には閉鎖されてしまいました。

兵庫県での石炭は『兵庫県史料』では、車村、奥妙法寺村（現須磨区）で採掘されたとの記録があります。その後奥妙法寺村で新しい採掘坑が発見され、一日150人が働き、18tが産出されました。品質については中等の質であったといわれています。その後、石炭が神戸で採掘されたという事実さえ人々の記憶から消えていきました。また、12Pで紹介した旧国鉄の鷹取工場は、この石炭をあてにして設立されたという説もあります。



石炭の発掘場所



妙法寺で発掘された石炭

2-1-5. 市民に親しまれている自然散策コース



須磨では、山、川、海など自然が豊富なため、目的や楽しみ方に応じてたくさんの散策コースが設定できます。須磨アルプスを中心に山登りを楽しむコースや、須磨海岸や海岸近くの小河川を楽しむコース、妙法寺川に沿って上流に向かって散策するコースなど、市民に親しまれてきた多くの散策コースがあり、幅広い世代が自然・緑、史跡などを楽しむことができます。



須磨周辺には、たくさんの散策コースがあるよ！

須磨区役所内にある須磨観光協会が発行・配布している「須磨観光ガイドマップ」には、須磨のみどころをめぐる、おすすめモデルコースとして、「須磨まち歩き十選」が紹介されています。



須磨まち歩き十選

凡例	
—	史跡めぐり定番コース
—	潮風を感じたい
—	近代の須磨を知る
—	義経・弁慶が通った道
—	板宿・大手の寺社めぐり
—	車・妙法寺をめぐる
—	ニュータウンめぐりコース(北)
—	ニュータウンめぐりコース(南)
—	のんびりふる里コース
—	絶景を満喫する(六甲縦走コース)

(平成25年(2013年)3月現在のコース)



自然散策する時には、注意しなくちゃいけないことがあるんだよ！

火を使わない！ 動物にえさをやらない！ ゴミは持ち帰る！
 とっていいのは写真だけ、採取しないで観察しましょう！
 マムシ、ヤマカガシ、スズメバチなどに会ったら要注意！



区のおすすめモデルコースを歩いてみよう！

2-2. 私たちの街の暮らしの歴史

私たちの街「須磨」は、神戸市の西部に位置し、別荘地、住宅地として発展してきた街です。須磨は、古くは妙法寺川をはじめとする河川の扇状地として形成され、もともと小さな漁村でしたが、貴族などが隠れ住む場所、別荘地として、また、山陽道から畿内への入口にあたることから、交通の要所として重要な位置を占めていました。明治時代になって鉄道が開通し、神戸市に統合されてからは人口も増え、どんどん北部方面にニュータウンが開発されていき、神戸市の一大ベッドタウンとなりました。また、源平の戦いの地でもあり、歴史と伝統のある街としての特徴も持っています。街のあらゆる場所に素晴らしい自然があり、歴史のあかしもたくさん見ることができます。



鉢伏山ロープウェイから見た須磨の様子

2-2-1. 源平の戦いの舞台となった須磨



平安時代の末期、須磨は源平の一の谷の戦いの舞台となりました。いったん、西国へ落ちた平家は、勢いを回復して兵庫に上陸したのに対して、後白河院の命を受けた源頼朝・義経は、京から攻め下ってきました。

生田の森をはじめ、激しい戦いが繰り返され、一の谷の背後の鶴越から、急ながけを一気に馬に乗って駆けおりた義経らは、平氏の陣を急襲しました。予想もしなかった方向から攻撃を受けた一の谷の陣営は大混乱となり、義経はそれにつけこんで方々に火をかけました。平氏の兵たちは我先にと海へ逃げ出したといわれています。



鶴越の逆落としにはいろんな説があるんだよ！

『平家物語』では、義経らが急こう配の坂を一気に馬で駆けおりた場所を鶴越として書かれています。地名としての鶴越は一の谷の東方8kmのところであり、遠く離れているため疑問が残ります。一の谷からはるかに離れた鶴越より、一の谷背後の鉄拐山のがけである方が戦いの様子がうまく説明できることから、逆落としが行われた場所が鉄拐山の東南か、鶴越かで学者の間でも長年論争になってきました。しかし、いろんな意見が入り乱れてまだ決着はついていません。

注) 鶴越の逆落としは須磨区では一の谷の逆落としと呼んでいます。



源平一の谷合戦の屏風図

(写真: 兵庫県立歴史博物館)



逆落とし図

(写真: 兵庫県立歴史博物館)



たたかいの戦の漬碑



小説「こちら一の谷」には、鶴越の逆落としが面白く書かれているよ！

逆落としの場所には、いろんな説があって論争の的になってきましたが、この論争について、筒井康隆の「こちら一の谷」という小説には、山陽電鉄とJRの自社鉄道の沿線観光コースの誘致合戦をモチーフに、義経や弁慶などの歴史上の人物も現代に登場させながらユーモアたっぷりに描かれています。



「こちら一の谷」を読んで、その中の源義経や弁慶の話を見てみよう！



すまでら げんべい
須磨寺は、源平ゆかりの寺と呼ばれているよ！

須磨寺には、源平に関する宝物が保管されており、源平ゆかりの寺としてよく知られています。源平の庭には、平敦盛と熊谷直実の一騎うちの姿が再現され、宝物館には一騎うちの時に敦盛が身につけていたという愛用の青葉の笛、敦盛の木像などが一般公開されています。



源平の庭



平敦盛の像



青葉の笛



青葉の笛のお話って知ってる？

平家物語によれば、鴨越の逆落としにより、平氏方が大敗し、海岸では味方の船を求めて殺到しました。源氏方の熊谷直実は、平氏方を追っている時に、沖の方へ馬を泳がせている若い武将、平敦盛を見つけました。「後ろを見せるとはひきょうなり、返せ、返せ」と呼んだところ、若武者は馬をもどしました。二人は一騎うちとなり、共に馬から落ちて組み合いとなりました。直実が勝ち、首を取ろうと相手の顔を見たところ、あまりに若いので名前をたずねると、自らは名乗らず、「我が名は誰かに聞けば知っている者もあろう」といって、首を差し出しました。

直実はためらいましたが、涙をのんで、その若武者の首をはねたのです。その時に、若武者の腰の笛に気づきました。その戦の朝、陣中で聞いた美しい笛の音色は、この若武者のものだとわかったのです。このことから、直実は、殺し合わねばならない戦の世のはかなさに、出家（家を出て仏道の生活に入ること）を決意することになります。この時の笛が青葉の笛です。

この青葉の笛は、昔の小学校唱歌にもなり、かなしみに満ちた歌は日本中で広く歌われました。

【青葉の笛（尋常小学校唱歌）】

1) 一の谷の 軍（いくさ）破れ
討たれし平家の 公連あわれ
暁寒き 須磨の嵐に
聞こえしはこれか 青葉の笛



私たちの街には源平にまつわる名所がいっぱいあるよ！
見に行ってみよう！

2-2-2. 環境の良い療養地、別荘地として知られた須磨



マップ 11

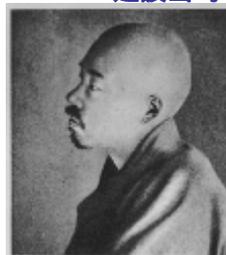


景色が美しく、気候が良い須磨は病気療養の適地だったんだよ！

須磨浦療病院（現・須磨浦病院）は、結核治療の第一人者だった医師鶴崎平三郎氏が、明治21年（1888年）に、鎌倉由比ヶ浜に次いで日本で2番目に建てたサナトリウム（結核療養所）といわれています。当時、不治の病としておそれられていた結核の治療のためには、静かで日当たりがよく、空気が澄んでいる場所で療養することが最もよいとされており、風景が美しく、温暖な須磨はまさに適地だったのです。また、現在みどりの塔が建つ辺りには、やはり結核療養所の「須磨保養院」があり、正岡子規も明治28年（1895年）に、療養のため約1ヶ月間ここに滞在しています。



建設当時の須磨浦療病院



正岡子規の写真

(写真: 国立国会図書館HP)



正岡子規の句碑



須磨にもたくさんの異人館があったことを知ってた？

神戸には、兵庫の港の開港により、外国人の住む地域が設けられ、次々に洋館が建てられました。こうした異人館が建っていた地域では北野町が有名ですが、意外に多いのは、須磨、塩屋、舞子方面です。須磨の一ノ谷町二丁目の一帯は「異人山」といわれるほど、戦前は異人館が建ち並んでいました。ただ残念ながら、現在では異人館はすべてなくなっています。



須磨の異人館(年代、場所不明)



異人山(一ノ谷町二丁目)



昔の異人館はどこにあったのか調べてみよう！

2-2-3. 芸術・文化の街



自然が豊富で風景が美しい須磨は、源氏物語の舞台となったり、古今和歌集などに詠まれたことから、全国に名を知られるようになりました。また、松尾芭蕉や正岡子規、与謝蕪村などの有名な俳人の句碑が至る所に建てられています。



須磨は、源氏物語の「須磨の巻」の舞台となったんだよ！

源氏物語は、平安時代の中期、紫式部が京都を舞台に書いた54帖からなる最古の長編恋愛小説です。「須磨の巻」は須磨が小説の舞台となっており、現光寺は源氏物語の主人公である光源氏が、家来数人と京より須磨に移住した時、ひっそりと住んでいた所と古来より語り継がれてきました。参道入口には、「源氏寺」の石碑が建てられています。また現光寺には、松尾芭蕉や正岡子規などの俳人たちが訪れ、名句を残しています。



現光寺



源氏寺の石碑



芭蕉の句碑



須磨では、いろんな有名な俳人が俳句を詠んでいるよ！

須磨を詠んだ俳句

俳人	俳句	詠まれた場所
松尾芭蕉	見渡せば ながむれば見れば 須磨の秋	現光寺
正岡子規	読みさして 月が出るなり 須磨の巻	現光寺
松尾芭蕉	かたつむりつ の 蝸牛 角振り分けよ 須磨明石	須磨浦公園
与謝蕪村	ひねもす 春の海 終日のたり のたりかな	須磨浦公園
高浜虚子	月を思い 人を思ひて 須磨にあり	須磨浦公園
正岡子規	ことづてよ 須磨の浦わに 晝寝すと	須磨浦公園
松尾芭蕉	須磨寺や 吹かぬ笛聞く 木下闇	須磨寺
与謝蕪村	ね 笛の音に 波もよりくる 須磨の秋	須磨寺
正岡子規	あかつき しらほ 暁や 白帆過ぎ行く 蚊帳の外	須磨寺



須磨には、たくさんの俳句の碑があるよ、行ってみよう！



須磨には、菅原道真にまつわるいろんな神社やいい伝えがあるよ！

菅原道真は、平安時代の貴族で歌人ですが、道真公を祀る全国の天神様（天満宮）では、学問の神様として祀っています。須磨にも、綱敷天満宮、板宿八幡神社、匂いの梅と飛び松、菅の井など道真公にまつわる神社やいい伝えがたくさん残されています。

【綱敷天満宮】

道真公が左遷され、大宰府に向かう途中、この地に一時上陸しました。道真公はこの地でしばらく旅の疲れをいやし、須磨の風光を楽しんだといわれます。道真公が死んだ後、当時の須磨の人々がこの神社に祀ったといわれています。「学問の神・須磨の天神さま」として、広く神戸市民に親しまれています。

【匂いの梅と飛び松、板宿八幡神社】

京にいた時、道真公は屋敷の梅と松と桜をとてかわいがっていました。道真公が左遷されることになった時、屋敷の桜は悲しんで枯れてしまい、梅の木はよい香りを送ってなくさめてくれました。しかし、松の木は知らぬ顔。「つれないのは、あの松の木だ」との道真公の言葉を伝え聞いた松の木は、そくざに京都から空を飛んで道真公の近くにやって来ました。板宿八幡神社の境内に残っている、古い大きな松の切り株がこの時の松だと伝えられ、「菅公の飛び松」と呼ばれています。



綱敷天満宮



板宿八幡神社



飛び松の切り株



弘法大師の鯖伝説も須磨が舞台になっているよ！

須磨寺の中にある貞照寺の本尊弘法大師木像は、右手に鯖を一匹さげているので、俗に鯖大師の名で呼ばれています。修行中の弘法大師が、塩鯖を運んでいた馬引きにそれを一匹もらえないかといったところ、馬引きが断りました。すると、急に馬が腹痛を起こしたのです。大師がお祈りをして水を飲ませると、たちどころに治ったので、馬引きは深く感謝し、鯖を持った弘法大師を祀ったという伝説があります。平成7年（1995年）の阪神・淡路大震災により、もと一ノ谷町にあった貞照寺は全壊したため、鯖大師と石仏は須磨寺へ移されました。



鯖大師（須磨寺）



新田次郎の「孤高の人」のモデルとなった加藤文太郎も須磨に住んでいたんだよ！

明治38年（1905年）、兵庫県美方郡に生まれた加藤文太郎も須磨に住んでいました。現在では全国に知られる六甲全山縦走を始めたのが加藤文太郎です。

非常に歩くスピードが速かった文太郎は、早朝に須磨を出て延長約50kmの六甲全山を縦走し、その日のうちに、また歩いて須磨まで帰って来たといわれています。

加藤文太郎は、ありあわせの服装をし、高価な登山靴も持たなかったため、地下足袋をはいて山に登る、当時では特殊な存在でした。単独行であることと、地下足袋をはいていることが、彼のトレードマークとなりました。

23歳のころから、日本アルプスの単独登頂に何度も成功して一躍有名となり、新田次郎の「孤高の人」のモデルともなりました。



「孤高の人」初版本



加藤文太郎のピッケル



須磨には、須磨琴という楽器があり、その文化が大切に保存されているよ！

須磨琴とは、1枚の板に1本の弦を張っただけの琴（一絃琴）のことで、たいへん珍しいものです。在原行平が、須磨にわび住まいをした時に制作し、日々さびしさをまぎらわせたといういい伝えがあります。

須磨寺にある須磨琴保存会は、古くから兵庫県の無形文化財保持者を招いて伝承につとめ、また地元の小・中・高校からの要望にこたえて、若い人たちへの指導にも力を入れ、後継者の育成を図っています。



一絃琴 須磨琴の演奏



新田次郎はたくさんの小説を書いているよ。読んでみよう！



須磨百首かるたって知ってる？

須磨百首かるたは、須磨特製の百人一首で、大正14年（1925年）に京都の山内任天堂から発行されました。百枚のかるたそれぞれに須磨に関して詠まれた歌があり、有名な歌人の和歌も多く使われています。

この須磨百首かるたは、現在に受け継がれているものがほとんどないため、NPO法人須磨歴史倶楽部が、須磨の文学の後世への伝承とかるたの再興を目指し、『現代版・須磨百首かるた』を再出版しています。



須磨百首かるた



私たちの街には、素晴らしい偉人がいたんだよ！

須磨には、私たちの手本となる感動的な生き方をした偉人がいました。須磨区の開業医の子として生まれた島田勲は、大阪府内務部長を務めていた昭和20年（1945年）、沖縄県知事になってくれないかとの願いを受け、すぐさま受け入れました。

当時は第2次世界大戦中で、米軍の沖縄上陸は確実とみられていたため、知事の人選に苦労していました。沖縄に米軍が上陸すれば知事の身にも危険が及ぶため、周囲の者はみな止めましたが、島田は「誰かがどうしても行かならんとあれば、いわれた俺が断るわけにはいかんやないか。俺は死にたくないから、誰か代わりに行って死んでくれ、とはいえん。」として、死を覚悟して沖縄へ向かったのです。

知事になった島田は、自らを投げ打って、これまでなかなか進まなかった沖縄北部への県民避難や食料の確保などに取り組み、終戦まで沖縄県民のためにつくしたのです。

沖縄県知事を務めたのは、沖縄戦の直前からのわずか5ヶ月にすぎません。しかし、その5ヶ月間に島田と接した全員が、島田に感謝したといわれています。

現在も、高校野球の夏の沖縄県大会に優勝した高校には、「島田杯」が与えられています。また、「沖縄・兵庫高校テニス選抜大会」にも「島田杯」の名がつけられています。



元沖縄県知事：島田勲
(写真：「沖縄の島守」、島田勲氏事蹟顕彰会)



須磨は日本一の大商社だった鈴木商店のルーツなんだよ！！

鈴木商店は神戸を本社にしていた巨大企業グループで、大正から昭和初期には三井、三菱をしのぐ日本最大級の商社でした。この巨大な企業を一代で築いたのが、丁稚（職人や商人などの家に奉公し、雑用に従事する少年）から身を起し鈴木商店の大番頭として活躍した金子直吉です。

現在の日本では、そんな会社があったことすら知らない人が多いのですが、双日グループ、神戸製鋼、帝人、サッポロビールなど、金子直吉が産み出し、大切に育てあげた会社のいくつものが、今も日本を代表する企業として活動を続けています。

玉岡かおるの小説「お家さん」には鈴木商店のことが、オーナーであった鈴木よねという女性の目を通して感動的に描かれています。

鈴木商店のあまりにも大きな成功は、国内で大きなねたみを買うことになりました。大正7年（1918年）に起きた米騒動では、裏で鈴木商店が米の買い占めをしているというウワサが流れ、店が焼きうちにあい、鈴木商店は大きな打撃を受けました。

鈴木商店が倒産した時に金子の資産を調べると、私財と呼べるものはどこにもありませんでした。金子が自らの私財を投げ打って学生を養い、学費を援助していたからでした。酒もタバコもやらず、私財を蓄えず、ひたすら仕事に打ち込み日本の経済発展に全力を注いだのです。

オーナーの鈴木よねさんと大番頭の金子直吉は、いずれも須磨に住んでいました。須磨という土地がこの大企業を生んだのかも知れません。

上の写真が当時の鈴木商店本社で、神戸駅の近くに建っていました。



当時の鈴木商店

(出典:『英和日本商工人名録』、1918発行、神戸大学附属図書館蔵)



小説「お家さん」

(出典:玉岡かおる著、新潮社刊)

2-2-4. 街の歴史を語る様々な「あかし」



私たちの街には、街の歴史を物語る「あかし」が、数多くあるんだよ！
須磨周辺を歩くと、タイムトラベルができるんだよ！

あなたの知っている場所に を付けてみよう。

寺社など	① つなきてんまんぐう 網敷天満宮	② むらかみていしゃ 村上帝社	③ すまでら 須磨寺	④ げんこうじ 現光寺
チェック				
寺社など	⑤ しょうふくじ 勝福寺	⑥ なすじんじゃ 那須神社	⑦ きたむきはちまんじんじゃ 北向八幡神社	⑧ ぜんしょうじ 禅昌寺
チェック				
寺社など	⑨ いたやどはちまんじんじゃ 板宿八幡神社	⑩ みょうこうじ はぎ 明光寺(萩の寺)	⑪ みょうほうじ 妙法寺	⑫ おおとしじんじゃ 大歳神社(車)
チェック				

こうした街の寺社などがたくさん残っていることには、当時の人々の「願い」や「いわれ」などが背景にあり、後の時代に伝えようとした思いがあります。



知らない歴史の「あかし」は、家族と一緒に歩いて確かめてみよう！



須磨には、由緒ある神社やお寺があるのを知っているかな？

須磨には、須磨寺、北向八幡神社、妙法寺など由緒ある神社やその他多くのお寺があります。

－須磨周辺の由緒ある神社・お寺－

須磨寺

須磨寺は、平安時代の初期のころ、光孝天皇の勅令により、聞鏡上人がこの地に建てた真言宗須磨寺派の大本山です。入口の仁王門に置かれている金剛力士像は、運慶・快慶の作と伝えられ、本尊は聖観世音菩薩坐像（国の重要文化財）です。また、源平に関する宝物が保管されており、源平ゆかりの寺としてよく知られています。

本堂横の大師堂に置かれた弘法大師像は、「須磨のお大師さん」として親しまれ、毎月20、21日の縁日には、たくさんの参拝客でにぎわいます。

村上帝社

村上帝社は、平安時代中期の村上天皇が祀られています。伝説によると、琵琶の名人であった太政大臣藤原師長が、都を出て須磨まで来た時、村上天皇が神霊となって現れ、師長に都に帰ることをすすめ、琵琶の演奏技術を授けました。師長は、琵琶の奥義（学問・芸能などの最も大事な事柄）を得るために唐に渡りたいと考えていましたが、思いとどまり都に帰ったといわれています。

多井畑厄除八幡宮

応神天皇を祀った多井畑厄除八幡宮は、奈良時代の終わりに大流行した伝染病をしずめるため、畿内の国境10ヶ所に神様を祀ったうちの1つといわれ、やがて八幡信仰と厄払いとが結びつき、厄除八幡として有名になりました。在原行平や、一の谷の戦いの時に源義経が祈願したといわれています。1月の厄除祭の3日間（18～20日）には、昼夜通して多くの人々がお参りします。



源平ゆかりの寺として知られる須磨寺



村上帝社



多井畑厄除八幡宮

勝福寺

勝福寺（真言宗）は、平安時代の中期に、証楽上人がこの地に出没していた鬼を、仏教の力で追い払って開いた寺と伝えられています。当時は、36坊もの七堂伽藍があったといわれますが、土砂災害や戦火によって失われてしまいました。また、昭和13年（1938年）の阪神大水害により本堂及び毘沙門堂が倒れてしまいました。以来70年間、本格的な本堂がないままでしたが、平成21年（2009年）に再建されました。

また、山門手前の路地奥にある小さな墓は、弟の足利直義との戦いに敗れた足利尊氏が切腹しようとしたところといわれ、「ハラキリ堂」と呼ばれています。

関所（須磨の関）

須磨の関は、摂津と播磨の境界に設けられていた重要な関所ですが、平安時代には廃止されました。平安末期に、源兼昌がその関を思いだして詠んだ、「淡路島通う千鳥の鳴く声にいく夜寝覚めぬ須磨の関守」という歌が、小倉百人一首に入って人々に広まるようになると、須磨の関も有名になりました。

「須磨の関」跡地については、関守稻荷の地、現光寺の地、多井畑などいろんな説があります。

妙法寺

妙法寺（真言宗）は、奈良時代の終わりのころ、聖武天皇のお祈りの場として行基菩薩により開かれたと伝えられています。平清盛は、神戸の福原の都を守るお寺とし、1,000石の領地を与えました。また、妙法寺は正月3日に鬼追い（57P参照）が行われることでも有名です。

禅昌寺

神撫山禅昌寺といい、室町時代には幕府の保護も得て栄えた臨済宗南禅寺派のお寺です。広い参道脇の紅葉が素晴らしいことから紅葉寺とも呼ばれ、また境内の開山堂にぶらさがるひょうたんは、「スズメのお宿」として知られています。山門は、江戸時代の名彫刻職人、左甚五郎の作と伝えられています。



勝福寺



関守稻荷神社



妙法寺



禅昌寺

北向八幡神社

本殿が北向きに建てられており、通称「北向きさん」と呼ばれています。源平の戦いの時、源義経は一の谷に向かう途中、空がにわかにかき曇って雷が鳴り暴風雨となりました。この時、義経の家来の那須与市は、北向八幡神社にお参りして戦勝を祈願したところ、不思議にも風雨は止み、義経一行はすぐさま一の谷へと向かって行くことができたといわれています。この神社と同じ境内には那須神社があり、那須与市が祀られています。



北向八幡神社

那須与市の墓

那須与市は、下野国（現、栃木県）の出身とされ、『平家物語』には、屋島の戦いで、船上の平家の扇をみごとに射ぬいたと記されている弓の名人です。しかし確実な史料にはその名がないので、伝説上の人物ともいわれていますが、舞曲や浄瑠璃にも登場するなど、人々にはたいへん親しまれています。

須磨では、晩年に与市が北向八幡神社へお礼のためにお参りし、病に倒れこの地で亡くなったとされており、その時に村人が建てたのが那須与市の墓といわれています。



那須与市の墓

明光寺（萩の寺）

古くは天台宗の寺でしたが、現在は神戸市唯一の黄檗宗の寺となっています。境内には、四国八十八ヶ所や青竜の滝などがあります。周辺一帯の萩は、大正時代に住職が日本各地より10数種の萩を移し替えたものです。秋の満開時には、素晴らしい眺めとなりたくさんの方が訪れます。



明光寺(萩の寺)

大歳神社（車、白川）

大歳神社は、この周辺では車と白川の2ヶ所に建てられています。車にある大歳神社では毎年翁舞神事が行われます。翁舞は、現在『車大歳神社翁舞保存会』によって保存・伝承されています（58P参照）。



大歳神社(車)



須磨には、たくさんの魅力的な公園や施設があるんだよ！

須磨には須磨海浜公園、須磨海浜水族園、須磨離宮公園、須磨寺公園など独特の魅力を持った公園や、いろんな施設があります。

須磨海浜公園

須磨海岸の白い砂と青い松林の続く須磨海浜公園には、須磨海水浴場、神戸市立須磨海浜水族園、球技場、ヨットハーバーなどがあり、海水浴シーズンはもちろん1年を通じてにぎわいのある公園です。



須磨海浜公園と海水浴場

須磨海浜水族園

神戸市立須磨海浜水族園は、約500種2万点の川や海の生物を観察することができる水族館です。

エントランスホール正面には、世界初の波の大水槽「Wave Tank」があり、長さ25m、水量1,200tの大水槽のなかで、外洋性のサメやエイ、イワシの群れが自然のままに観察できるようになっています。



須磨海浜水族園

須磨離宮公園

公園の近くの月見山は、ありわらのゆきひら在原行平が須磨にわび住まいをした時にお月見をした場所といわれ、この高台に、西本願寺のおおたにこうずい大谷光瑞の別荘がありました。

この別荘は、大正3年（1914年）に明治天皇の離宮（皇居とは別に設けられた宮殿）として改築され、武庫離宮と呼ばれていました。戦火により大部分が失われましたが、昭和42年（1967年）皇太子殿下（今上天皇）の御成婚を記念して公園の造成が行われ、須磨離宮公園として市民に開放されました。

公園内の噴水広場は、ヴェルサイユ宮殿の庭園を連想させる欧風の庭園であり、約5.2haの植物園には、300種8万株の草木が植えられており、四季折々にいろいろな植物が楽しめます。



ヴェルサイユ宮殿風の須磨離宮公園

(写真: 神戸市)



公園の花と噴水

(写真: 神戸市)

須磨浦公園

須磨浦公園は面積103.8 haの公園として昭和10年（1935年）開園されました。

歴史的には源平一の谷の古戦場としても知られ、神戸市指定有形文化財の「敦盛塚」などの史跡があります。また桜の名所としても知られ、神戸市の「こうべ花の名所50選」にも選ばれています。

公園内には、松尾芭蕉や、与謝蕪村、正岡子規、高浜虚子の句碑があります。

須磨寺公園

明治の終わりに、山陽電鉄によって、鉄道の開通とともに須磨寺遊園地が造られました。山陽電鉄は、沿線の開発にも力を入れ、須磨寺の堂谷池を中心にした遊園地では、池にはボートが浮かび、動物園、花人形館などがあり、娯楽施設のない当時としては唯一の郊外遊園地としてにぎわいました。

現在は遊園地はなくなりましたが、須磨寺公園として、源平ゆかりの須磨寺をはじめとする歴史めぐりの拠点、また、身近な遊び場、憩いの場として親しまれています。裏山の「おらが山」も公園の敷地で、毎日登山や六甲全山縦走路の拠点ともなっています。

妙法寺川公園

妙法寺川公園は、住宅街の中を流れる妙法寺川の下流にある公園で、四季を通じて市民の憩いの場所となっています。特に桜は神戸市内でも有数の名所として知られ、両岸に植えられた約400本の桜なみ木では多くの人が通り抜けを楽しみます。



須磨浦公園



須磨寺公園の桜



妙法寺川公園の散策路

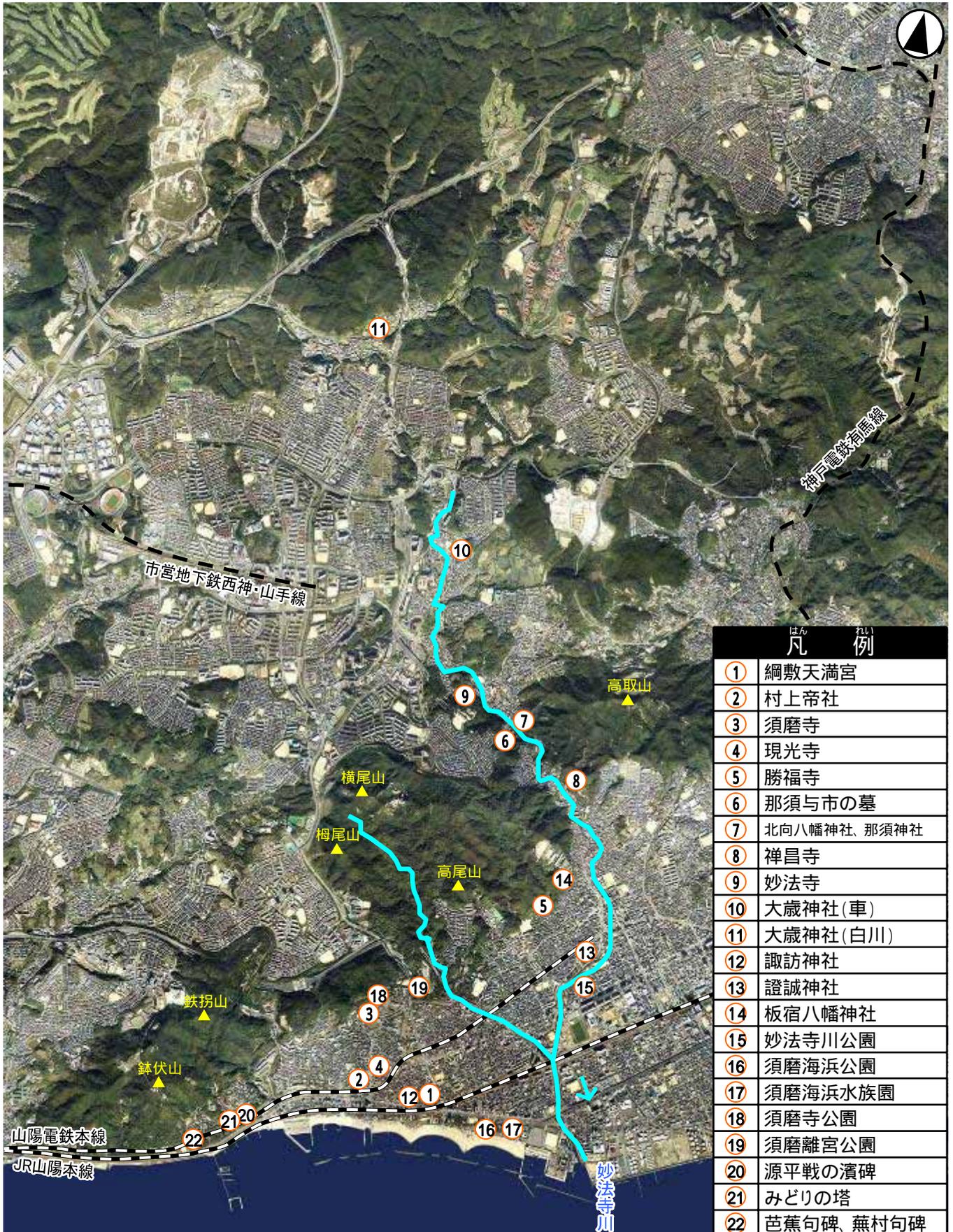


妙法寺川公園の桜



須磨には、いろんな特色のある公園などがあるよ、行ってみよう！

主な「あかし」位置図



2-3. 私たちの街の祭りや地域の活動

私たちの街は、自然が豊かで景色が美しい、別荘、療養の地としての顔、各種の寺社や鬼追い、翁舞などの伝統文化の息づく街としての顔など様々な街の顔を持っています。

また須磨海岸や、この街を流れる妙法寺川、その他の小河川は、昔から人々の暮らしと深く関わっていました。川の周辺には桜や松なみ木に代表される美しく豊かな自然、また、神社仏閣や歴史的な文化財が点在するほか、多くの物語や文学の舞台にもなっています。私たちの街では、これらの自然や伝統文化を守り・伝え・育てていく様々な活動が行われています。



須磨・妙法寺の追儺式

2-3-1. 人びとが集う須磨周辺の祭り



須磨周辺では、須磨浦山上遊園梅まつり、妙法寺川のさくらまつり、車の翁舞、勝福寺・妙法寺の追儼式（鬼追い）、多井畑のカネタタキなど、たくさんのお祭り・神事が開かれます。

妙法寺川さくらまつり

約500メートルにわたって植えられた約400本のソメイヨシノが咲きほこる妙法寺川公園では、毎年4月上旬に「須磨妙法寺川さくらまつり」が開かれます。



妙法寺川桜なみ木の様子



妙法寺川沿いの桜のトンネル

須磨浦山上遊園梅まつり

毎年2月から3月にかけて、山上遊園では梅まつりが開かれます。

園内700本の梅が、寒紅梅から咲き始めて、白加賀、淋州、枝垂れ梅、麻耶紅梅と順番に開花していきます。



須磨浦山上遊園の紅梅



須磨浦山上遊園の白梅



みんなでさくらまつりなどに参加してみよう！

勝福寺の追儺式

追儺式（鬼追い）は、豊作を願い、病気や災いを払う儀式で、平安時代から行われていたといわれています。

昔、周辺の山に鬼人が出ては旅人をおそっていました。そこで若い僧侶に頼み鬼人退治をしてもらう事になりました。僧侶はお堂を建て、祈祷を続け、鬼人を退治したといわれています。勝福寺の追儺式は、この伝説がもとになっています。



勝福寺の追儺式



追儺式の鬼おどり

妙法寺の追儺式

妙法寺の追儺式（鬼追い）も、平安時代から続くといわれる伝統行事です。豊作や安全、健康を祈って、鬼の一家がお伊勢参りをする旅の様子を表しています。

和太鼓やほら貝に合わせてたいまつを振りかざす勇ましい踊りは、災いを振り払い、福をもたらすと伝えられています。妙法寺の鬼追いは1年の他の行事より早く、毎年1月3日に行われます。



妙法寺の追儺式



追儺式の白鬼



追儺式、鬼追いって何をするためのものかな？

追儺式、鬼追い、鬼やらい、鬼おどりなどと呼ばれますが、呼び名が違うだけで同じものです。いずれも大晦日や正月に行われ、豊作、健康、安全、子孫の繁栄などを願う伝統行事です。良い鬼が儺（悪い鬼）を払うために行われるものといわれています。

たいのはた 多井畑のカネタタキ

カネタタキは、毎年旧暦の8月13日に行われる豊作を願った行事です。行灯^{あんどん}を先頭に、子どもたちがカスリの着物を着てカネを鳴らしながら村中を歩き、多井畑厄除八幡宮^{やくよけ はちまんぐう}へ行灯^{ぼうのう}を奉納します。毎年、地域の小・中学生も参加し、伝統を次世代へ継承^{けいしょう}しています。県下でも数少ない踊り念仏^{おど}の原型を残したものです。



多井畑のカネタタキ行事

あきなまい 車の翁舞

翁舞神事は、毎年1月14日に、その年の豊作を祈り、前年の実りに感謝するために行われる行事です。翁舞は能楽の源流^{げんりゅう}とされる中世芸能で、一般に能楽は3部構成ですが、車では4部構成です。これは江戸時代の形態で、芸能の移りかわりを示す全国的にも珍しいものです。翁舞は国の重要無形民俗文化財に指定され、現在『車大歳神社翁舞保存会^{くまおとしん}』によって保存・伝承^{でんしょう}されています。



車の翁舞神事



車の翁舞神事



小学生たちも鬼追いやカネタタキに参加しているよ！
みんなも行ってみよう！

2-3-2. 須磨の森・川・海を守る環境活動



マップ 6 33 4 5

私たちが住む須磨には、たくさんの川がありますが、とりわけ妙法寺川、天井川は身近な存在で、夏には川の中に入って遊ぶ子どもたちの姿が見られるなど、子どもたちの自然観察の場、市民の憩いの場としても親しまれています。そのような川の環境を守るため、クリーン作戦など川をきれいにする活動も行われています。

平成24年（2012年）春には、妙法寺川に水際まで行ける親水空間がオープンし、より川の生き物などに直接触れる楽しみができる公園となりました(24P参照)。



自然観察



生き物探し



クリーン作戦



天井川には、天皇池や天井川公園のピオトープなどがあり、自然の宝庫なんだよ！

天井川の中・上流は離宮公園に近く、御料地（皇室の所有地）であったため、豊かな自然が守られてきました。天井川の上流には、須磨の名水と呼ばれる豊かで清浄な湧き水や満々と水をたたえた池があり、これは昔の武庫離宮の用水を供給するために造られた池で、地元では天皇池と呼ばれています。

天皇池は、池の左岸側を半周するように、大雨の時には土砂水が迂回するためのトンネルが掘られており、アーチ状に石を組み上げた構造となっています。このトンネルや、水を供給するための周辺の施設などは、当時のドイツの技術を導入して造られたものといわれています。

天井川公園は、市街地にありながらたいへん美しく、また植物の種類も多いため、その観察には最適です。



天皇池



土砂水を迂回させるためのトンネル

2-3-3. 様々なまちづくり活動



私たちが住む須磨の、美しい森・川・海を守るためにいろんな活動が行われています。須磨FRSネット、すま・はまの会、六甲山自然案内人の会などの様々な団体が、幅広く、積極的なまちづくり活動を行っています。



どんな団体がどんなことをしているの？

須磨FRSネット

須磨には森・川・海を舞台に、保全活動・啓発活動などを展開している多数の地域団体があります。これらの団体が、それぞれの活動の活性化と環境行動の大切さのさらなる情報発信を進めるため「須磨FRSネット」が結成されました。現在は以下のような団体が、このネットワークによって、各地で特色ある活動をしています。

- ・いたやにすと いたやど里山クラブ
 - ・奥須磨公園にトンボを育てる会
 - ・須磨海岸を美しくする運動推進協議会
 - ・滝が谷公園を美しくし隊
 - ・たんぼば親子クラブ
 - ・天井川を美しくする会
 - ・都市と山村をむすぶ会
 - ・とびまつ森の会
 - ・妙法寺川を美しくする会
 - ・横尾自然塾
 - ・よこおみち森もりの会
- など



須磨FRSネット



妙法寺川クリーン作戦

－妙法寺川や天井川で活動する主な団体－

たんぼば親子クラブ

天井川の生き物観察や手作りおもちゃ教室、他地域での自然観察などを通して、親子のきずなを深め、自然の大切さを伝える活動をしています。

天井川を美しくする会

天井川の清水（名水）を守り、川の環境を維持するため、クリーン作戦を行うとともに、子どもたちが川に親しめるよう、自然観察などの取り組みを進めています。

妙法寺川を美しくする会

主に「妙法寺川」で活動しており、人々が水辺で憩える「親水河川」をめざして、水質の改善や環境保全のため、クリーン作戦や情報発信活動を展開しています。

（注：上記の団体は平成25年（2013年）3月時点のものです。）

すま・はまの会

すま・はまの会は、20年前から須磨海岸の様々な問題に市民として関わろうと活動を続けてきました。現在、主に以下のような取り組みを行っています。

毎年初夏の海浜植物観察会の実施

地元小学校における海岸生態系に関する教育の実施

(依頼による)

駐車違反・不法進入などへの注意

海岸に関する法令が守られているかの調査



すま・はまの会

六甲山自然案内人の会

六甲山とそれに連なる山々の周辺で定期的に自然観察会を実施し、土・日・祝日には山の案内人として、ボランティアガイドを行っています。また、自然を守るために環境保全整備などの活動も行っています。



須磨における自然観察会

KOBE子どもエコクラブ

「KOBE子どもエコクラブ」は、神戸市内の幼児から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブです。クラブでは、クリーン作戦、緑のカーテン作り、エコクッキング、リサイクル工作、生きもの観察など自分たちのできる身近な環境に関することなら何でもエコクラブの活動対象としています。



KOBE子どもエコクラブホームページ

神戸子どもエコチャレンジ21倶楽部

次世代を担う子どもたちが、成長に応じて、地球にやさしい環境活動に気付き・考え・行動できるよう、事業者・民間団体・行政が一緒になって神戸の子どもたちへの環境教育を普及し、支援するための組織です。



神戸子どもエコチャレンジ21倶楽部ホームページ



家族や友達と参加してみよう！